

市長選挙 当選



2016年4月16日 市長選挙当選証書授与式にて

小泉としひろ後援会の初代会長で顧問の高地忠男氏が昨年4月に逝去されました。心からご冥福をお祈りいたします。

高地氏は2004年当時40歳の無名の新人であった小泉俊博の後援会を立ち上げ初代会長に就任しました。初挑戦となった市長選挙に惜敗しましたが、12年間の浪人期間中も一貫して小泉を支え続けました。そして2016年の市長選挙で陣頭指揮を執り見事に初当選に導き、その後2017年に顧問に就任されました。

心からご冥福をお祈りします

小泉 俊博

高地前会長は、少々のことでは動じない親分肌の方で本当に頼りになる人でした。

実は浪人中に一度だけ私から「後援会を解散させたい」と申し出たことがありました。しかし「俺の目の黒いうちは絶対に解散させない」と頑として反対し認めてくれませんでした。

今こうして市長となって市民のために仕事ができるのも、あの時高地前会長が後援会を解散せずに存続してくださったおかげです。

こんな私を信じて応援し続けていただいた高地前会長の御恩に報いるためにも、これからも一生懸命に小諸のために尽くしたいと思います。高地前会長ありがとうございました。

合掌



2016年4月の市長選にて

小諸を支えてきた2つのDNAとは

最近講演をする機会がだいぶ増えてきました。例えば昨年2月に日本経済新聞社主催で行われた「地方創生～アフターコロナの新しい形～」といった全国向けの大きなものから、中学生、高校生などの若者を対象とした講演、公民館シニア教室や女性学級など市民向けのものなど様々です。



内容は小諸版ウエルネスシティとはどのような内容なのか、その背景と最近の小諸市の動きなどです。

こうした講演の中で必ず触れるのが以下の「小諸を支えてきた2つのDNA」です。

- ① **小諸は歴史的に地元住民と移住者や市外の協力者との交流による「化学反応」をまちの発展につなげてきたDNA**
例) 小諸義塾の木村熊二や島崎藤村などとの交流は文化芸術にとどまらず産業振興に及んだことなど
- ② **時代を先取りする「ファーストペンギン※」として様々なチャレンジをしてきたDNA**
例) 県内初の図書館や動物園。最近では全国1号となるコンパクトシティの取り組みなど

小諸市では現在コロナ禍もあり移住者が増加しています。それらの方々の中には新たな出店をしたり、地域の方々との交流が深まり「化学反応」を起こし、まちの発展につながってきています。

また、行政としても企業版ふるさと納税を活用した産学官連携や県内でも珍しいPark-PFIを活用した都市公園の魅力アップ事業など様々なチャレンジを行っています。

※ファーストペンギンとは、群れで行動するペンギンのうち、魚を捕るために一番最初に海に飛び込む勇気あるペンギンのこと。そこから転じて、ベンチャー精神あふれる起業家など新しい挑戦をする姿勢を表す。海には天敵の存在や荒波に流されてしまうといった危険があるが、食糧である魚が生息する場所でもあり、より多くの魚を獲るチャンスがあるといわれている。

小諸ぷらいど通信



編集・発行 小泉としひろ後援会事務所 〒384-0808 小諸市御影新田 2529-1 TEL0267-23-8788



小諸が大きく動きはじめました

小諸市長
小泉 俊博

令和4年が幕開け、今年是小泉市政も任期2期目の折り返しとなります。後援会員の皆様には小諸市政に対して、ご支援ご協力を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

「小諸モデル」によるワクチン接種と高接種率
一昨年に続き昨年もコロナに翻弄された年となりました。医師・看護師など医療従事者の皆様には陽性者への対応、ワクチン接種などご尽力をいただきました。心から感謝申し上げます。市が実施したワクチン接種事業では、市民が接種予約をせずに日時指定で接種を行ったこと、郊外の高齢者をバスで送迎するなどのいわゆる「小諸モデル」を採用しました。他の自治体と異なり市民の負担軽減を図ったこと、誰一人取り残さずに集団免疫を獲得し医療崩壊を防ぐことを目的としましたが、市民から高い評価をいただきました。おかげさまでワクチン接種率も1月11日現在で、12歳以上の全対象者で92.5%、65歳以上の高齢者が95.5%と非常に高く、「集団免疫」も獲得できたと考えます。このため市内では第5波が終了した9月中旬から3か月以上にわたり感染者が確認されないなど落ち着いた状況でした。しかし、年明けから佐久圏域はもちろん、県内、全国的にも第6波となる爆発的な感染拡大が広がっております。接種済みでも感染するブレイクスルー感染も増えてきていますので2月から開始する3回目のワクチン接種もご協力をお願いします。

小諸の価値を評価した民間投資が相次ぐ
小諸市では将来を見据え市民の利便性の向上を図るために「多極ネットワーク型コンパクトシティ」のまちづくりを進めてきました。昨年10月には高齢者福祉センターや病児病後児保育施設、愛のりくんコールセンター等を集約する公共施

設部分と商業施設の複合施設である「こもテラス」が完成し、多くの方が利用されています。これに相俟ってここ2年くらいに旧北國街道沿いや駅周辺では個性的な出店が相次ぎ賑わいが創出されています。新たな出店も続く予定でこの勢いは今年もまだ続きます。また、郊外においては無添加化粧品工場が御影区で稼働すると共に、世界的なマスターブレンダーを擁するウイスキー蒸留所が松井区で現在工事中です(来年3月竣工予定)。



飯綱山公園の高原美術館下には、来年度中に民間企業がワイナリーとレストランを建設する予定ですし、この他にも企業の進出がいくつか予定されています。さらに昨年は市外の2つの企業から企業版ふるさと納税を頂戴し、寄付企業と大学、地元企業などが参画し地域公共交通や農業振興の事業構想を計画・実行すると共に、また低炭素社会実現のための環境事業に取り組むことになりました。

小諸版ウエルネスシティの実現にむけて
一昨年から人口減少時代において「選ばれるまち」となるべく市のビジョンとした「小諸版ウエルネスシティ」に基づくこれら一連の大きな動きは小諸が持つ様々な価値や可能性に対して「民間投資」というカタチで評価されています。こうした動きは今後市内全域に様々なカタチで及んでいくものと思います。現在のコロナ禍は、「選ばれるまち」となるか否か、地方自治体の生き残りをかけた熾烈な競争にもなっています。ウィズ・コロナ、アフター・コロナを見据えて、これからも市民の皆様との対話を心がけ、全力で取り組んでまいります。どうか皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。



ウエルネスシティ 信州小諸
自分らしく居られるまち。自分と暮らすまち。



企業誘致・新規出店・人材育成事業

積極的な企業誘致により、無添加化粧品の㈱HABAの小諸工場が御影区で稼働。また軽井沢蒸留酒製造㈱が松井区にウイスキー蒸留所とビジターセンターを建設中（令和5年3月竣工予定）。昨年7月にITベンチャーの㈱BTMが小諸駅前に「こもろラボ」をオープン。同社はITエンジニア養成講座を開催し、IT人材の育成とIT企業の集積を図る計画。また、小諸駅前周辺、旧北國街道沿いには、個性的な飲食店などの出店が相次いで出店しており、今後も複数の出店が予定されています。



産学官連携、企業版ふるさと納税の活用

小諸市と㈱カクイチ、事業構想大学院大学が「まちづくり包括連携協定」を締結。小諸市の発展のために、地元企業なども参画してMa a S事業*と農業振興事業をテーマに研究、事業構想を実現していきます。同社から企業版ふるさと納税の寄付を受け実証実験の財源としています。

※Ma a Sとは：Mobility as a Serviceの略

情報技術を活用して一元的に公共交通とそれ以外の様々な交通手段を、運営主体の違いを超えてひとつの移動支援サービスとして提供する新たな移動の概念。



また、㈱渡辺パイプからも企業版ふるさと納税を受納しました。

本財源は、小諸市の地域課題の解決を目標にしたプロジェクト「高原ウェルネスリゾート推進プロジェクト」に活用されます。本プロジェクトは、2025年までに環境に配慮した多様で利便性の高い交通インフラの整備を強化し、滞在者のココロとカラダを癒す通年型の高原ウェルネスリゾートを目指すプロジェクトです。

小泉市政2期目 2020～2021年の軌跡



ウェルネスシティ 信州小諸

— 自分らしく居られるまち、自分に還れるまち —

少子高齢化・人口減少の中、「選ばれるまち」となり、市民が健康で生きがいを持ち、安心安全で豊かな人生を営めるまちを実現すべく「小諸版ウェルネスシティ」をビジョンに掲げて様々な施策を打ち出している小泉市政。市内外から「小諸が大きく動き始めた」といわれるようになったこの1年の主な軌跡を紹介します。

小諸市動物園再整備事業



大正15年の開設以来、県内最古の動物園として多くの皆さんに愛されてきた。しかしながら、現在は施設の老朽化や動物の高齢化、動物福祉に考慮した獣舎の改修など、様々な課題に直面。本動物園では段階的な再整備（全4期工事）を進めています。現在は、第1期整備工事として、優先的に「ペンギンの展示施設」と「ふれあい休憩所」を建設中（令和4年春完成予定）。

2期整備工事以降については、財源確保ができ次第順次行う予定。当面は、2026年の100周年に向けて、2期工事として、レッサーパンダ、カピバラ舎の新設、トイレ建替え、倉庫新設などを予定しています。



「小諸モデル」によるワクチン接種

ワクチン接種の予約が難しいなど全国の自治体で混乱しましたが、小諸市では①地区ごとに集団接種の日時を指定（高齢者自ら予約する必要なし）。②被接種者の安全を考え、医療センター隣接地を専用会場とする。③郊外在住の高齢者については、無料送迎バスを運行し、市職員が乗降場所での対応を行うなどの「小諸モデル」で実施。

高齢者など市民の負担を軽減し、一人でも多く接種していただき、地域全体で感染しにくい、重症化を防ぐ「集団免疫」を作り、医療崩壊を防ぐことを目的としている。



青木村と災害時相互支援協定締結

昨年5月に「浅間山火山防災協議会」が浅間山の大規模噴火の際の小諸市からの避難者が最大3万1254人と発表したことを受け、青木村の北村政夫村長の提案で災害時相互協定を締結。県内でもいち早く広域避難計画を実現。応急対策や復旧対策、物資の供給や被災者の受入、職員の派遣を内容としています。

飯綱山公園の魅力アップ事業



飯綱山公園に公募設置管理制度（Park-PFI）を活用し、民間活力による魅力向上を図ります。事業パートナーとなる（株）グレーベは、高原美術館の下にワイナリーとレストランを建設し令和4年度中の供用開始を目指します。眺望の良いこの場所が他の施設と相乗効果を生み出し魅力がさらに向上します。

眺望の良いこの場所が他の施設と相乗効果を生み出し魅力がさらに向上します。